

## 「取手駅西口開発」を問うシリーズ⑩

# まだ決まっていないA街区開発

整備中の暫定交通広場（A街区）と其の後の駅前交通広場の整備完了で土地区画整理事業は2023年3月終了予定。その後地権者組合施工でA街区開発が始まる予定です。しかし、区画整理も予定

通りの完成は難しく、再開発もまだ決っていません。準備組合で検討中の再開発事業（タワマンなど）の都市計画決定、再開発組合設立・事業認可など法手続きが必要です。



A街区再開発高層住宅と公共施設・商業施設の整備イメージ

再開発事業は、都市計画画法第1条が定める「公共の福祉の増進に寄与すること」を目的に行われる事業であり、地権者の同意はもとより、市民の合意が前提です。計画される再開発事業は、高層マンション低層部に商業施設と公共施設導入も検討されています。

## A街区開発 市民説明会 公聴会開催を

日本共産党は、A街区開発についての情報公開、説明責任を果たすこと、市民説明会を行うこと。再開発事業の都市計画決定案の説明と都市計画法に基づく公聴会開催を市長に求めています。



駅前広場完成イメージ（取手市ホームページより）

活力と魅力のある駅前  
地権者の納得 市民の合意があつてこそ  
日本共産党



### ＜事業スケジュール＞

令和3年	都市計画決定（再開発事業）
令和4年	再開発組合設立（事業認可）
令和5年	権利変換（計画認可）
令和5～6年	工事着手
令和7～8年	完成

## 非常用電源動かず 排水ポンプ停止

全国各地を襲った豪雨は、取手でも7月11日のゲリラ豪雨による被害は各地に及びました。市発表の被害状況は、道路冠水71か所、陥没8か所。土砂流出・堆積23か所。床下・床上浸水28か所。双葉や藤代などで雷による停電4

880軒に及びました。双葉1丁目全域と2～3丁目の1部では、停電と非常用発電機の動作不良で、排水ポンプは運転停止、短時間のうちに広範囲で浸水しました。市は必要な再発防止策を行うとしています。

7・11  
ゲリラ  
豪雨

## 大雨被害から地域守って

小池えつ子市議は、7月11日、井野地域で初めての道路冠水に驚いた地域の方々からの声を受け道路管理課に連絡。数日後に市職員と地域の方々と現地確認をしながら、側溝清掃と点検の結果など説明を受



道路冠水した現地で雨水被害など改善について住民と市職員と話し合う小池市議  
＝7月29日

け、改善方法などについて懇談しました。



浸水した双葉1、2丁目を7月11日、ユーチューブから



「コロナ」感染

緊急事態宣言下

# 新規感染者急増 連日「過去最多」



五輪会場周辺、人だかり絶えず 緊急事態宣言の延長決定も  
[2021/07/31 18:19]「上毛新聞」より

## 五輪優先 コロナは無策 国民の命を危険にさらす菅政権

菅首相は、記者会見でのまともな説明もなく、7月17日日本共産党など野党が要求した臨時国会開催要求にもこたえず、閉会中審査にも出席せず、国民への説明責任を果たしていません。  
首相が頼みとするワクチンも

供給不足、現場は混乱、取手市でも19歳～59歳までの市民の接種見通しが立ちません。  
無策のコロナ対策、五輪優先で国民の命を危険にさらす政権こそ緊急事態です。

自公政権こそ  
緊急事態

「緊急事態宣言下」の東京オリンピック開催という異常な中、東京も全国も連日過去最多の感染者数を更新しています。「宣言」を6都府県に拡大し、国民に引き続き自粛を求めつつ五輪強行の菅政権。8月2日には、これまで、指定感染症として入院を原則としてきたものを、重症者を除き原則自宅療養とする方針に変更しました。方針変更で、在宅死が次々に起きかねません。「救える命が救えない事態だ」と専門家から、危機を訴える発言が相次いでいます。



もう止めないと手遅れになるぞ！  
白川 ただし(7月30日、しんぶん赤旗)

安全・迅速なワクチン接種、大規模検査と十分な補償  
命と暮らし・営業を守るコロナ対策に全集中を

日本共産党

## 誰一人とり残さない行き届いた教育めざし

### 「県内全ての小中学校で完全 35人学級を求める署名」スタート

新日本婦人の会は、県内全ての小中学校で完全35人学級の実施を求め署名運動をスタートしました。

昨年、コロナ禍の中、小中学校の少人数学級を求める世論と運動の高まりで、国として40年ぶりに35人学級が実現しました。でも、小学校だけ5年かけてゆっくりと、しかも中学校は、適用されないという不十分なものです。それ

を補う形で、北海道、群馬、山梨など14の道県で、独自予算で少人数学級を実施しています。

茨城県も県独自予算で35人学級を実施してきた県です。しかし、35人以上のクラスが3クラス以上にならないとクラス数を増やさず、副担任を配置するという不十分な制度です。



### 無条件・完全35人学級速やかに

取手市内の小中学校では、10校 26クラスが35人以上の学級になっています。

中には、40人以上の学級もあり、子どもも先生も大変です。行き届いた教育をするためにも、無条件で完全35人学級実現が求められます。

新日本婦人の会は、これまでも子ども達の豊かな成長を

願い、教育条件整備のために運動してきました。

同会は、9月5日は、茨城県知事選挙もあり、知事候補に、このささやかな願いを突きつけたいと、10月1日から開かれる県議会に提出する請願署名への協力を呼び掛けています。



茨城県

### 6日から独自の緊急事態宣言発令

【併せて国の宣言適用を要請】

知事は8月4日の臨時会見で、感染急増により、「6日から19日まで県内全域に緊急事態宣言を発令する」と発表。対策ステージを4に引き上げました。取手市は、既にステージ4に相当する「感染拡大市町村」に指定されています。

取手市  
8月2日  
臨時市議会

### 通学路整備

### 財源確保などの意見書可決

6月8日、千葉県八街市内で起きた下校時の児童死傷事故は全国に衝撃を広げました。

歩道もなく狭くて危険な通学路の安全対策が繰り返され求められながら、それを怠ってきた道路管理者の責任が厳しく問われています。

危険な通学路が市内各地に残される取手市にとっても他人事ではありません。

8月2日の臨時市議会は、自民会派の呼びかけに、全会派が賛同して開催され、通学路整備の財源確保など4項目の政府への意見書を可決しました。

市長与党は、政府への要求とともに、市長に安全な通学路の整備を迫るべきです。

日本共産党は、市税の西口開発一極集中改め通学道路の速やかな整備を求めています。



危険な通学路(桑原)を調査する市議会総務文教常任委員会。共産党は、小池えつ子議員が参加しました。=7月16日